

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 27

グローバル人材育成プログラム に参加して

福 羅 彩 美

Ayami FUKURA

環境ソリューション工学科 2年

1. はじめに

2017年8月29日から9月7日にかけてベトナムのハノイにて企業見学と現地学生とのPBL、シンガポールではビジネスパーソンとの交流会や現地大学でのキャンパスプログラムに参加した。具体的なプログラムの日程を下記の表に示す。

本稿では研修内容、このプログラムへの志望動機、ベトナムでの日系企業の見学で学んだこと、プログラムを通して学んだことを下記に記す。

表 研修日程

8月29日(火)	ベトナム入国(ハノイ) オリエンテーション(ホテル)
8月30日(水)	企業訪問(3企業)
8月31日(木) 9月1日(金)	ハノイ工業大学において 現地学生とのPBL・発表
9月2日(土)	博物館見学等、自由時間
9月3日(日)	ベトナム出国、シンガポール入国 博物館見学等
9月4日(月)	南洋理工大学において キャンパスプログラム
9月5日(火)	トークセッション(2名) ビジネスパーソンとの交流会
9月6日(水)	自由時間(オプションツアー) シンガポール出国
9月7日(木)	帰国

2. 志望動機

私が本プログラムに参加しようと思った理由は大きく分けて3つある。1つ目は、海外に行くことで自分自身の視野を広げられると考えたからである。現在、私が就きたい職種は決めているものの現実味

が無く不安を抱いていたため、講演会や海外の企業を見学することにより、就きたい職業の幅を広げられると考えたからである。2つ目は、海外に対する苦手意識を少しでも減らしたいと考えたからである。私は、知らない土地で言葉も通じない状況である海外に苦手意識があった。しかし、同学部の人とこのプログラムを行うため安心感があり、少しでも苦手意識を解消できると考えたからである。3つ目は、将来英語を使うことが増えていくと考えたため、学生の内に海外へ行き、経験を積みたいと考えたためである。

3. プログラムの概要

ベトナムでは、スマートフォンのアプリやウェブサイトを開発している「Rikkei」、業務系アプリの開発をしている「NTQ」、浄水器事業、散水事業、金型事業を行っている「Takagi Vietnam」を訪問した。また、ユニクロをベトナムへどのように売り込むかについてハノイ工業大学の学生と共にアンケート調査を行いプレゼントも行った。

シンガポールでは南洋理工大学でのキャンパス見学等を行った他、ビジネスパーソンの方との交流会、講演会が行われた。

4. ベトナムでの企業見学

プログラムのうち、私は特に日系企業「Takagi Vietnam」の訪問について報告する。この企業は日本に本社があり、主に浄水器事業、散水事業、金型事業を行っている。工場内の1階はほとんど機械が製造を行っており、目視確認の作業は人間が行っていた。階を上がるにつれ人間が作業する工程が多くなるように感じられ、散水ノズルを製作する工程ではベトナム人の器用さを活かして手作業で組み立てていた。最終の抜き打ち検査で不具合が検出されたことは1度もないとのことで、精密に作られていることが分かった。また、金型製造を行うことにより多くの製品を作ることが出来るのである。私は、初めにこの施設に入ったとき Takagi Vietnam で作ら

れている製品が並べられているのを見て、「とても多くの製品を作っている会社だ」という印象を受けた。蛇口においても様々な種類の蛇口がおり、散水ノズルにおいても数十種類のノズルがあった。

蛇口には簡単に取り外せる工夫がされており、中のカートリッジを簡単に交換できる仕組みになっていた。この会社は2008年11月にベトナムへ進出、設立をしたがベトナムでは日本に比べて高いといわれる離職率は低く、従業員は順調に増えているとのことであった。離職率を低くするための工夫であるが製作系の企業は社員旅行などが無いと考えていたため、福利厚生をおろそかにしないということに感心した。また、ベトナムは賃金が高いところに転職してしまう傾向にあるため、賃金については考えているとの話も聞いた。従業員については、現在は日本人も携わっているが将来的にはベトナム人だけで運営してもらう予定であると言っており、これから規模は大きくなっていくのだろうと感じた。

5. プログラムを通して学んだこと

私は、このプログラムに参加して多くのことを学ぶことが出来た。1つ目に積極性である。積極性がなければ班員に任せっきりになってしまうため自分のやるべき仕事をいち早く見つけ、こなし次に何をすればいいか考える大切さを学んだ。また、保守的にならず色々なことに挑戦することにより海外に対するイメージが良い方向へ変わった。

2つ目にプレゼンテーションで大切にすべきことである。プレゼンテーションでは、高いところから全体像を把握する鳥の目、狭く深く追及する虫の目、全体の流れと流れる方向を読み取る魚の目と言うものがあること、相手側にインパクトを与えること、相手に伝えるために表の綺麗さなどが重要であ

ることを身をもって学べた。今後プレゼンをする時にこのようなことに気を付けようと考えた。

3つ目に志望動機にもあった視野、苦手意識の解消、海外渡航への経験についてである。海外に行く前は日本国内での就職しか考えていなかったが、付き添いの方の話や現地で仲良くなった企業の方と接して、海外での就職もしてみたいとまで考えられるようになった。海外での就職は簡単ではなく、言語の壁もあると考えられるが、講演会を聞きそれ以上に海外に就職することに魅力を感じるようになった。さらに苦手意識についてであるが、企業の魅力だけでなく、自由行動の際には班員で回ることができたため安心感があり、言葉が伝わらないときはフォローしてくれたため苦手意識は減り、海外へいくことが好きになった。最後に海外渡航の経験についてである。私は海外に数回行ったことがあるが、英語でコミュニケーションを取れたという実感があまりなかった。原因としては、自ら英語でコミュニケーションを取ろうとせず人に任せていたからだと考えた。今回のプログラムでは英語を使う機会が多く英語しか通じる言語がなかったため英語でコミュニケーションを取れたという実感はあった。ただそれと共に、自分自身の英語力では表現したいことが十分に表現できず悔しい気持ちになり、PBLの際にも班の人に任せた部分も多くあったため今後の課題として勉強に取り組もうと考えた。

6. おわりに

本プログラムを準備して下さった方々、班員に感謝の気持ちでいっぱいである。この経験が無駄にしないよう、このプログラムを通して自分自身に多くの課題を見つけることができたため、残り約3年間の大学生活をどうしていくかをよく考え、有意義に過ごしていきたいと考えた。